

かなえるエコライフ

東日本大震災を経て、あらためて注目された再生可能エネルギー。中でも、太陽光発電は、技術の進歩や低コスト化などによって設置数が増えている。また、2012年7月から始まった「固定価格買取制度」も、その追い風となっている。そこで、太陽光発電のメリット、注意点などを2人の専門家に聞いた。

マンション管理コンサルタントに聞く

太陽光発電設備の設置にあたって

まずは「固定価格買取制度」を知ることから

——太陽光発電を導入する際に、環境貢献や非常用電源の備えだけでなく、経済的なメリットを挙げる人が多いと聞きます

一昨年から始まった「固定価格買取制度」により、投資としてのメリットが出てきたことが大きいですね。売電収入を住宅ローンの一部に充てたり、賃貸物件のオーナーの場合は、空室期間の補填にしたりする事もできます。

太陽光発電の「固定価格買取制度」は、発電能力が10kW以上を産業用、10kW未満を住宅用と区別します。電力会社は、産業用を消費税込み34.56円/kWhで20年間、全量を買取り、住宅用を同37円/kWhで10年間、自家消費して余った

分を買い取ります（価格は2014年度の単価）。一般的な戸建て住宅では、

■固定価格買取制度における太陽光発電「産業用」と「住宅用」の違い

種別	産業用太陽光発電	住宅用太陽光発電
発電量	10kW以上	10kW未満
固定買取期間	20年	10年
買取内容	全量買取 〔発電した電力全てを電力会社が買取〕	余剰買取 〔自家消費分を引いて、余った電力を電力会社が買取〕

屋根のスペース上、10kWを超えるサイズを載せることは難しいですが、太陽光発電量・電力使用量・売電量が分かるモニターが設置されることにより、節電意識が高まって、より経済的効果が増すでしょう。

また、子どもがいる家庭では、とても良い環境教育にもなります。前述の売電収入を得るには、電力会社や国への申請が必要ですが、手続きは、太陽光発電の設置業者がすべて代行してくれます。

設置費用だけでなく 部材や周辺機材の品質もチェック

——太陽光発電を導入する際に注意すべき点は

まずは品質面。太陽光パネル自体は、多くの製品が20年以上の耐久性を持つていますが、パネルの架台やパワーコンディショナが粗悪な製品で故障し、その修理でコストがかさむのならば、意味がありません。また設置工事がずさんだと、屋根の漏水が起きる可能性もあります。ですから導入に際しては、製品の耐久性や性能、メンテナンス

の有無、保証なども十分に比較検討されることが必要だと思います。

最近では、メンテナンス費用込みで、販売している施工業者もありますが、その業者が、長期のメンテナンスのできるしっかりした会社なのかどうかを見極める必要があります。また台風や火災、あるいは投石などで損害があったらどうする？という心配もあります。火災保険で対応できるので、保険会社に

相談して、保険の内容や必要な手続きについて、確認しておくといいでしょう。

既築戸建て住宅に太陽光発電を導入する場合、設置条件にもよりますが、最近の動向だと、1kW当り40万円を切る水準となり、10年以下で初期費用が回収できるかどうかが目安となると言われています。

また、その元となる売電量については、パネルの発電量だけではなく、パワーコンディショナの変換効率も重要です。設置される方ご自身でも、ある程度の勉強をしてから、複数の施工業者より見積りを出してもらい、検討するとよいでしょう。

太陽光発電に不向きな立地や屋根形状に見えても、その影響が小さい場合もありますので、専門業者に試算を依頼してみてください。



馬淵 裕嘉志（まぶち・ゆかし）さん

1961年岐阜市生まれ。中部電力勤務を経て、2007年に住関連コンサルタント会社「株式会社リブネット・プラス」、「マンション管理相談センター」等3社を設立。現在は、マンション管理を中心にコンサルティング・執筆・講演を行っている。今年3月に「中部スマートマンション推進協議会」代表幹事に就任。